2025 年　　1 月　　15 日　提出

2024 年度　高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高　等　学　院　長
高等学院同窓会理事長　殿

研究代表者氏名［　　原田　　宏人　　］

学年・組・番号［　　2 年　　D 組　　32 番］

研 究 課 題：　文献と江戸期司法制からみる飯縄信仰衰退の過程
（英文）　The process of Japanese mountain faith ‘s decline in Mt.Iizuna from the perspective of documents and early modern judicial system

研 究 概 要 ：

飯縄信仰とはかつて、現長野市富田を中心として栄えた修験道信仰の一種である。全盛期である室町・戦国時代においては足利義満、武田信玄など名だたる面々から熱心に信仰されており、その庇護下に入ることで全国へ広がったとされる。しかし現代においては、奇妙なことに、飯縄信仰は非常にマイナーな存在となってしまっている。これについて興味を持ち、昨年度の本間君の研究を先行研究とし、当信仰がなぜ現代では衰退してしまっているかを調べようと思い至った。

研究手法として、飯縄信仰の全盛期の直後である江戸時代に着目し、当時の飯縄信仰について言及する文献を早稲田大学図書館などで入手する、及び現地調査を行うことにより、情報を得てまとめていくという形になった。具体的には『信濃史料』『長野県史』などにて、飯縄社神主と戸隠社信徒との間で起こった土地争いに関する情報が載っており、これをまとめ、自らの考察を加えることで研究成果とした。

研 究 成 果 ：

飯縄信仰が江戸時代を機に衰退の一途を辿る要因となったものは、昨年度本間君の研究にて示されていた時代背景的要因に加えて、今回の研究で重視した「飯縄と戸隠の神領境に関する争いがこじれたこと」という物理的要因の二つがあると考察した。後者については、当時の制定法とされる「公事訴訟取捌」を参照したことにより、法制度の未熟であった江戸時代だからこそ神領境争論の決着がつかなかったとも考察できた。

結果については、司法制度という独自の切り口から飯縄信仰の衰退を追うことができた。また、学院祭や学芸発表会にてその成果を発表することができ、胸を誇ることのできる一年間であった。一方、変体仮名の古文書のすべてを正確に現代語訳することができなかったり、あまり民俗学に関する内容を調べられなかったりと不十分な点も散見された。来年度も研究を続けるとなった際には、上記の点に留意していきたい。

研　究　者：

研究代表者　2 年 D 組原田宏人

研究分担者　2 年 B 組和田拓士　　2 年 D 組藤澤颯太

担当教諭　松澤徹　　（受給額：26000 円）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します

（次のページに続きます）

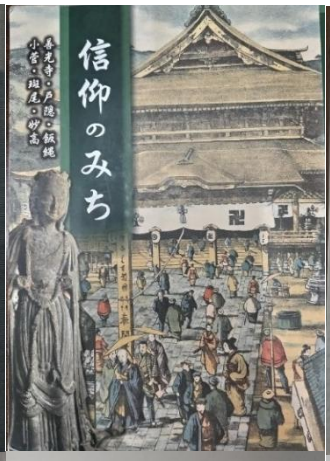
研究成果写真　：

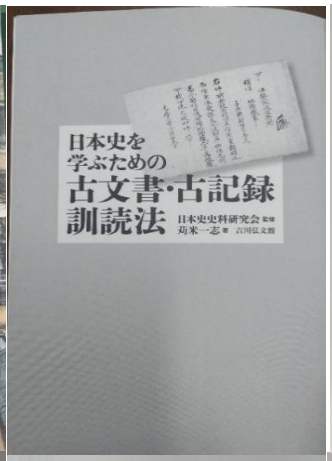
学院祭・学芸発表会にて民俗学プロジェクトとして展示ブースを設けた際の写真

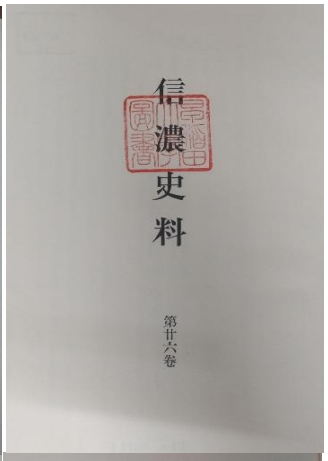
2024 年 5 月 5 日、長野県長野市へ現地調査に赴いた際、小菅神社の鳥居の前にて撮影した写真
（民俗学プロジェクト所属の本間、徳田、蒲生と同行しており、左から徳田、原田、蒲生）

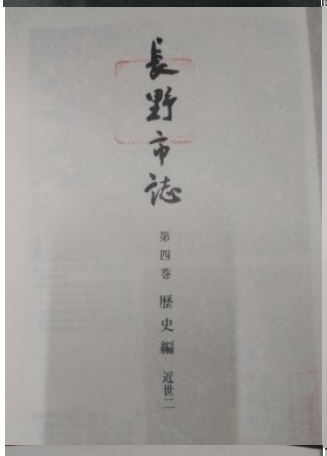
研究において個人作成した、当時の飯縄・戸隠神領の範囲を示す地図。
上記の現地調査と文献から得た情報に基づき作図を行った。

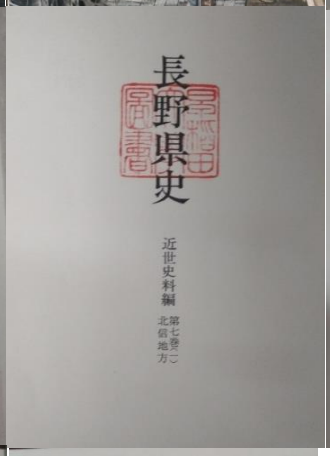
研究に用いた書籍の表紙

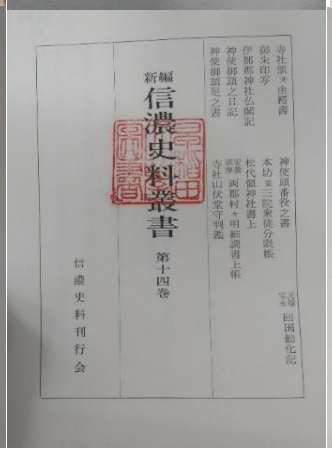


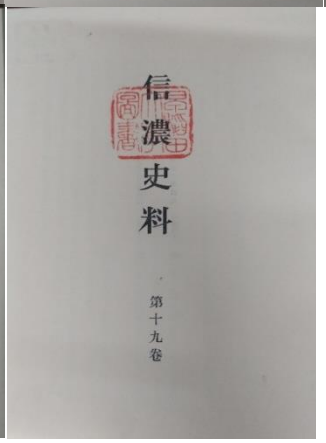












以上